

# 1 章

## 6つの地区の 個性がわかる地図帖

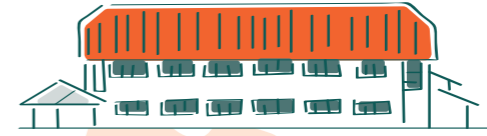
智頭町には、「智頭」「山形」「那岐」「土師」「富沢」「山郷」の6つの地区があります。これら6つの地区には独特の風土と個性があり、その地区が歩んだ歴史が、現在の様子に大きく影響しています。自分の住む地区はどういう個性を持っているのか。他の地区にはどんな個性があるのか。掲載された6地区の歴史、取り組み、見どころなどから、地区の個性を読み取り、理解を深めてください。

# 旧小学校の校歌

「智頭」「山形」「那岐」「土師」「富沢」「山郷」の6つの地区には、それぞれ小学校がありました。児童の数が少なくなり、平成24年に智頭小学校一校に統合されました。その後、旧小学校の校舎の活用のために、各地区で様々な取り組みが進められています。各地区の想いや風景、風物が詰まった、懐かしい校歌をご紹介します。



## 旧山形小学校



若い穂杉の たくましく  
めぐる山々 肩を組み  
みんな仲よく すこやかに  
大空高く 伸びて行く  
ああわれら 山形小学校  
北股川の 清らかな  
流れ豊かに 澄む水の  
みんな正しく 美しい  
心の泉 受けついで  
ああわれら 山形小学校  
草城くさぎの峰に 湧き上がる  
雲大いなる 夢を乗せ  
みんな希望に 輝いて  
はるかにこだま 呼び交わす  
ああわれら 山形小学校  
〔作詞〕川田毅一〔作曲〕寺谷雅夫



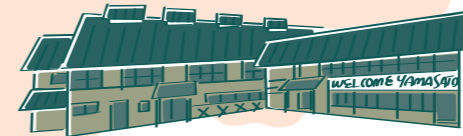
## 旧智頭小学校



牛ぶせ山の 杉の木は  
光を求め すくすくと  
君もわたしも 杉の子だ  
そうだ しっかり のびるのだ  
強く 正しく のびるのだ  
青いお空に 山なみは  
みんなが肩を ならべてる  
君もわたしも 山の子だ  
そうだ なかよく 進むのだ  
明るく 元気に 進むのだ  
きれいな水に くろい土  
さくよ心の きよい花  
君もわたしも ちづの子だ  
そうだ つぼみだ ひらくのだ  
のぞみ 高く ひらくのだ  
〔作詞・作曲〕横原正男・長石昭太郎・福本尚士



## 旧山郷小学校



春秋しゅんじゅう永久に色かえぬ  
常盤とこわかの木々の 伸び栄さかゆ  
若杉山に 抱かれし  
平和の里の 学び舎は  
吾等健児の 誇りなれ  
春雪はるゆき融けて 志戸坂の  
嶺みねより落つる 玉水たまみずは  
窓辺に近く せせらぎで  
学びの道を ひと筋に  
歩む吾等に 希望あり  
〔作詞〕岡田栄治〔作曲〕小林哲男



## 旧富沢小学校



朝日に輝くかご山を  
せおいてここに立つ校舎  
庭の桜も照り映えて  
今日も我等の鐘が鳴る  
鐘が鳴る  
水清らかな新見川  
若あゆのごとはつらつと  
我等山の子集いつつ  
今日も楽しく学ぼうよ  
学ぼうよ  
雲湧きあがる波多の台  
望めばはるか夢さそう  
明日の希望も高らかに  
今日も仲良く励もうよ  
励もうよ  
〔作詞〕建部十郎〔作曲〕有本瞳日月



## 旧土師小学校



若草萌える 穂見山  
いつでもじつと みつめてる  
そうだ元気にすくすくと  
伸びる土師っ子 誇りあり  
高い理想に 胸はって  
清い流れの 土師川は  
心の友よ 仲よしだ  
そうだ素直に のびのびと  
育つ土師っ子 望みあり  
君も私も 手をとって  
雨や嵐に 負けないで  
学びの道を 一筋に  
そうだたゆまず つら抜いて  
磨く土師っ子 光あり  
永久に栄えあれ わが母校  
〔作詞〕谷本喜久男〔作曲〕小泉恵



## 旧那岐小学校

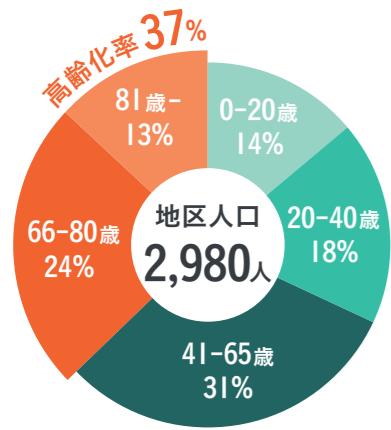


せいらんわたる那岐山の  
ふもとのみどり香も高く  
かがやき立てるわが校舎  
はえある歴史さんとして  
昔を今に咲きかおる  
ああ父母のたゆみなき  
はげみを今にうけつぎて  
理想のはたのなびくもと  
もゆる希望を胸にしめ  
学びの庭にいそしまん  
のびる若木と意気高く  
日ごとにそだつわがいのち  
高き知性と純情の  
久遠くわんの花と咲き出でん  
平和の里の朝ぼらけ  
〔作詞〕小倉林一〔作曲〕小幡義之

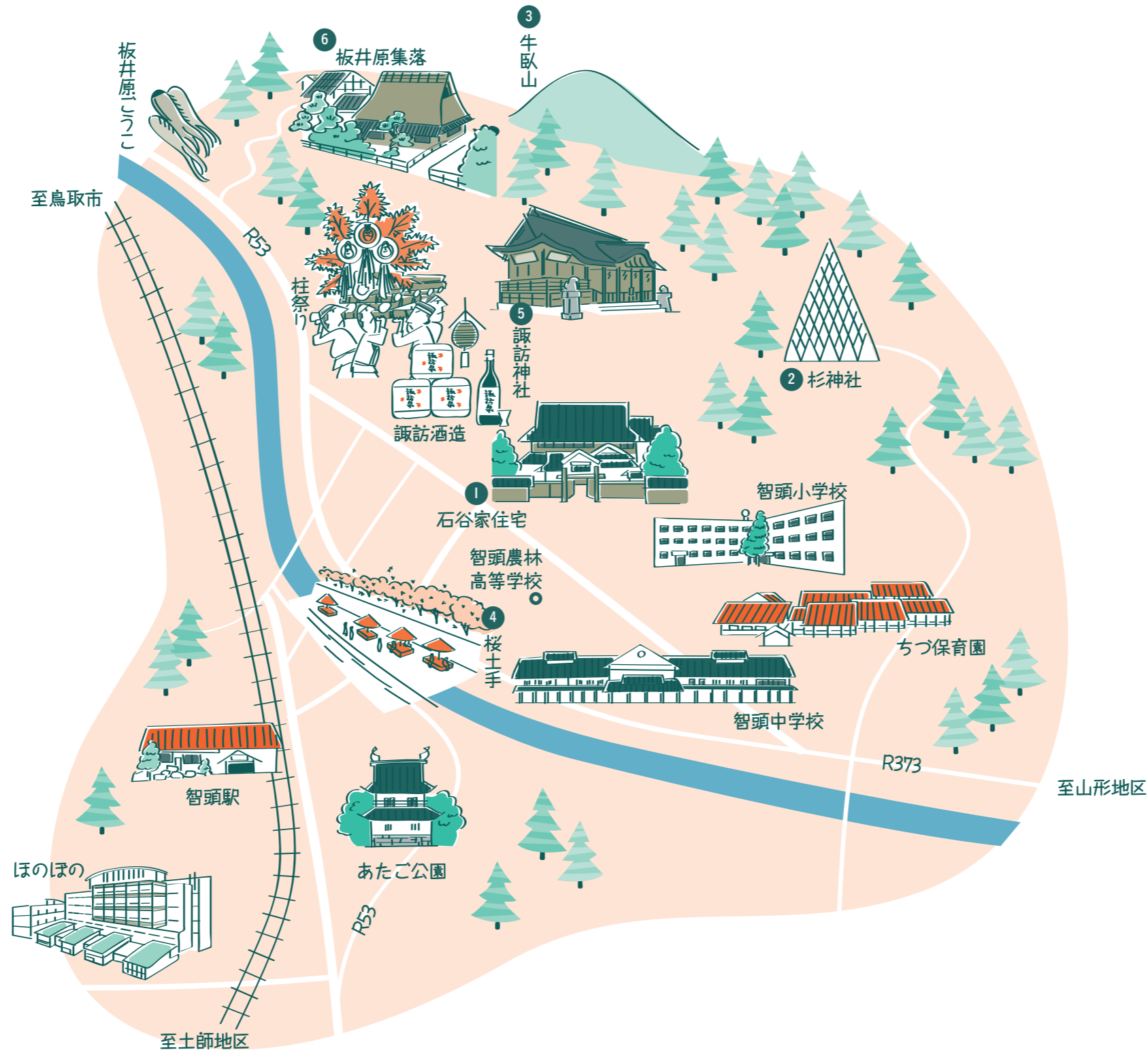
個性豊かで、粋なまち。

# 智頭

地区



平成29年8月31日現在



## 地区の歴史と特徴

智頭地区は因幡街道と備前街道の交わるところに位置し、江戸時代には鳥取藩最大の宿場町として賑わいました。今も街道筋には石谷家住宅や米原家住宅、塩屋出店といった非常に贅沢な木造建築物が残り、往時の繁栄をしのばせています。

智頭宿は、鳥取の藩主が参勤交代する際の最初の止宿でもあり、藩主が滞在するために3,000坪の広大な敷地を有する「御茶屋」(本陣)が作られていました。当時の智頭宿全図を見ると、往来の真ん中に水路を通し、商家や家屋敷が200mに渡って軒を連ね、さらに備前橋を渡って河原町に職人通りが延びていました。上方と備前の両方から物資が集まり、市が月に6回も立つ賑わいぶりでした。智頭地区は、今も智頭町における中心街であり、江戸時代からの面影を残しつつ、大正から昭和初期の懐かしい町並みの中に、町役場をはじめとする中枢的な施設や商店が集積しています。

## 地区の取り組み

智頭地区では、平成9年に市瀬集落、平成11年に上町集落、平成13年に中島集落で智頭町「日本1/0村おこし運動」の取り組みが始められました。市瀬集落では納涼祭や、集落独自のゴミ集積場の設置、上町集落では石谷家住宅夏まつりや、智頭宿雪まつり、中島集落では、年越し蕎麦づくり、縦尾城への遊歩道整備等の取り組みが実施されてきました。また、河原町サービス商店会や、かわらまち夢づくり委員会などは、まちなかの活性化に取り組んでいます。

### 1 石谷家住宅 (国指定重要文化財)

智頭宿の発展に寄与しながら、大庄屋として問屋業、山林業を営んできた石谷家。約40部屋あり、大規模な近代和風建築として高い評価を得ています。

### 2 杉神社

杉の精霊を祀る全国でも類を見ない神社です。また裏山にある滝大明神は因幡の名所でもあります。

### 3 牛臥山

牛が横になった形に似ていることから、こう命名されました。小学生の遠足、ファミリー向けの登山コースとして人気の山です。

### 4 桜土手

180本のソメイヨシノが1,300mに渡り植えられ、春の満開時には見応えがあります。

### 5 諏訪神社

弘安元年(1278年)に信州の諏訪大社の分霊をいただいた、軍神や鎮火の守護神。町内の山から担ぎ出した4本の杉を神社に奉納する柱祭りが6年ごとに開催されます。

### 6 板井原集落 (鳥取県伝統的建造物群保存地区)

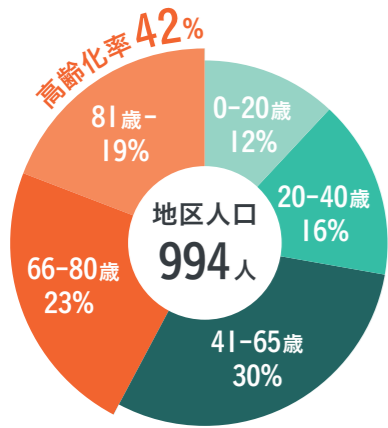
日本の山村集落の原風景が残る全国的にも希少な集落です。特産の板井原ごこは、板井原集落特産の小さな大根の漬け物で、昔ながらの作り方を継承しています。



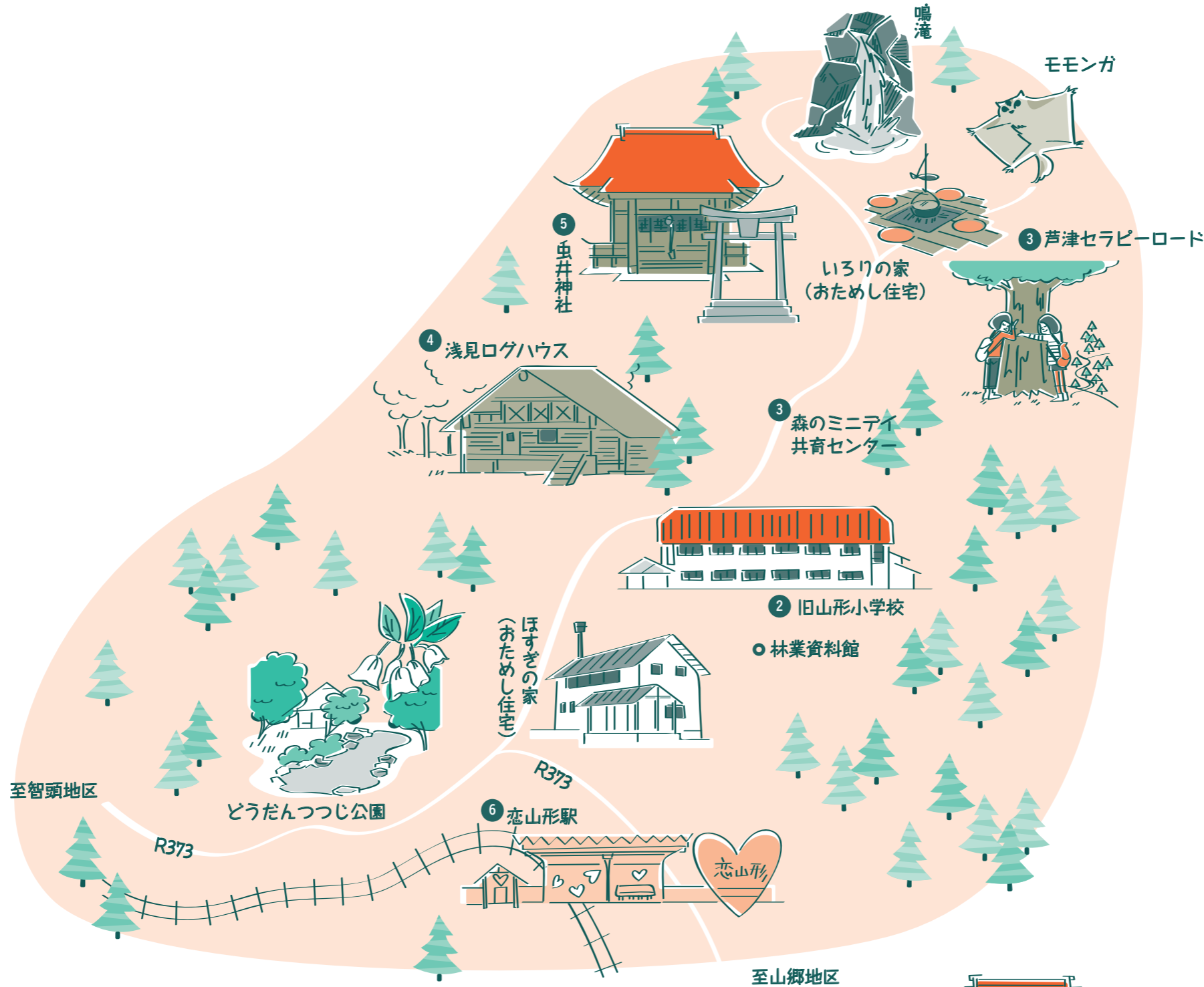
強い思いと、実行力。

# 山形

地区



平成29年8月31日現在



## 1 芦津セラピーロード

中国自然歩道を活用し、森林セラピーを行っている。春は新緑、秋は紅葉と自然豊かな景色が来訪者を楽しませてくれます。

## 2 林業資料館

地元の山仕事を歴史、道具、写真などを通して、わかりやすく展示しています。山に関わる人々のインタビューもあり、貴重な資料がいっぱい。

## 3 森のミニデイ

地域の高齢者の介護予防のために、集まって食事や話をする場所を提供する住民主体で行うサービス。山形地区振興協議会有償ボランティアで行っています。

## 4 浅見ログハウス

智頭町「日本1/0村おこし運動」で浅見集落のみなさんが手作りでログハウスを建設し、集落と集落外との交流拠点となっています。

## 5 虫井神社

秋の例大祭には花籠と獅子舞が奉納されます。花籠を背負う若者は、芦津地区から神社まで裸足で歩き、前後左右に太鼓、カツギ花、世話役等10人前後がお供します。

## 6 恋山形駅

山形に来い！という意味から恋山形駅と名付けられました。日本に4つある恋のつく駅の一つであり、地元郵便局と連携した恋ポストやハート型の絵馬などが名物となっています。

## 地区の歴史と特徴

篠坂は和紙、郷原は養蚕<sup>ようさん</sup>、芦津は林業と、それぞれの集落が得意の産業を有していた歴史があり、豊かな雰囲気<sup>ふんいき</sup>のただよふ地区です。沖ノ山天然林は智頭杉発祥の地でもあり、昭和46年には沖ノ山国有林の一部が学術参考保護林として内部指定されるなど、日本の杉の主な在来品種として注目されています。

山形地区のシンボルは、奥行81m、幅10mの一直線の廊下をもつ長大な木造2階建ての旧山形小学校です。明治8年に開校し、平成23年度末に閉校となった同校は、国の有形文化財にも登録され、現在では、さまざまな活動団体の事務所や林業の歴史をわかりやすく展示するスペースとして活用されています。また、旧山形保育園を共育センターとし、地域福祉に強い思いを持ちながら、森のミニデイなどを行い、地域のより処<sup>よりのところ</sup>としています。

## 地区の取り組み

山形地区では、平成12年に芦津集落、平成14年に浅見集落で智頭町「日本1/0村おこし運動」の取り組みが始められました。芦津集落では子ども麒麟獅子舞を中心にした文化交流、蕎麦やお酒の製造、浅見集落では魚のつかみ取り、ログハウスなどあざみふれあい広場の整備、浅見谷のホタル保護などの取り組みが実施されてきました。そして、平成20年には山形地区振興協議会が設立され、林業資料館や木育ステージ、認知症0地区宣言や森のミニデイなどが実施されています。また、重要文化財に指定された旧山形小学校の活用にも取り組んでいます。

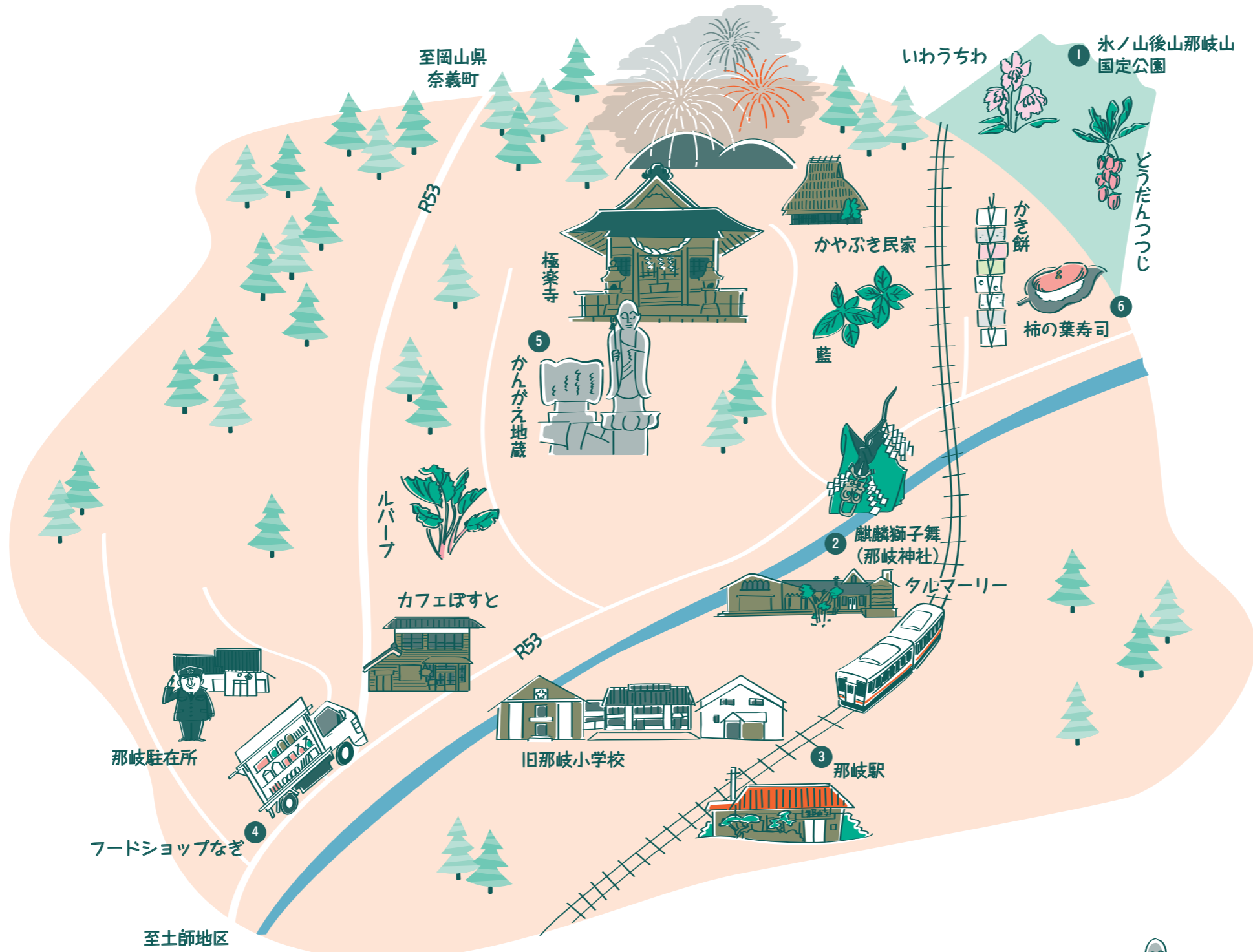
明るくて、人情に厚い。

# 那岐

地区



平成29年8月31日現在



## 地区の歴史と特徴

古くから信仰の山として愛されている伊邪那岐命と伊邪那美命の降臨いざなぎのみこと いざなみのみこと伝説がある那岐山のふもとに広がる那岐地区。那岐山にはどうだんつつじやしゃくなげ、いわうちわなどの群生が見られる一方で、植林も積極的に行われ、黒尾峠から一望できる那岐山の広大な杉並木は貴重な景観資源となっています。

江戸時代から、新田の積極的な開発に乗り出したり、切り出した藩の御用材をご城下まで運搬する筏師として稼いだりと、少しでも生活を良くしようと努力してきた、向上心のある明るい地区です。

こうした過去の歴史の背景もあり、今でも、進取の気にあふれ、何事にも積極的な、明るい土地柄です。

## 地区の取り組み

那岐地区では、平成9年に早瀬集落、五月田集落、平成12年に奥西集落、早野集落で智頭町「日本1/0村おこし運動」が始まりました。早瀬集落では情報誌・たよりの発行、味噌の製造やイベント出店等、五月田集落では打上花火で親しまれるかんがえ地蔵祭りや加工施設の整備・運営、奥西集落ではいざなぎ市場の開催や文化財保護、ヤーコンの栽培・加工、早野集落では山菜おこわの製造やミニデイサービスなどが行われてきました。そして、平成23年には、いざなぎ振興協議会が設立され、婚活イベント「本気の婚活！」や那岐駅舎森のミニデイなどが実施されています。

**1 氷ノ山後山那岐山国定公園**  
どうだんつつじ、いわうちわなどの花が咲き、多くの登山者が訪れる人気の山です。那岐山を守る会が見守り、維持しています。

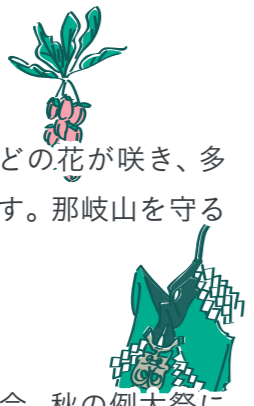
**2 那岐獅子舞保存会**  
那岐神社氏子による獅子舞保存会。秋の例大祭には、花籠とともに奉納され、また新年には各集落へ披露します。そのための練習も随時行っています。

**3 那岐駅**  
JR因美線の現役駅舎ですが、森のミニデイやレンタルスペースなど地元のみなさんが集まる場所としても活用されています。

**4 フードショップなぎ**  
地元の人に愛されるスーパー。移動販売も行っているため、移動手段のない人にとっては欠かせないお店です。

**5 かんがえ地蔵**  
那岐地区五月田集落の極楽寺にある知恵を授けるといってお地蔵様。毎年8月に行われるかんがえ地蔵祭りでは打上花火、振る舞いうどん、踊りなどが催されます。

**6 柿の葉寿司・かき餅**  
智頭町の郷土料理である柿の葉寿司や冬季に餅を吊るしてつくるかき餅を那岐特産開発研究所で生産し、販売しています。





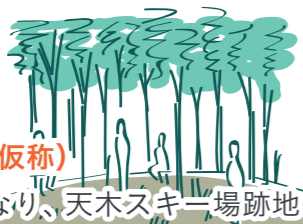
一人ひとりの技が光る。

# 土師

地区



平成29年8月31日現在



## 1 天木セラピーロード (仮称)

地元のみなさんが中心となり、天木スキー場跡地を整備した森林セラピーロード。見通しのよさが自慢。

## 2 森林セラピー弁当

全て手作りした森林セラピー用のお弁当。山菜などを保存し、1年を通して提供できるよう工夫しています。

## 3 大塚刃物鍛冶

一本一本手で製造される刃物は、切れ味、使い心地ともに抜群。長年愛用しているファンも多い地域の刃物屋です。

## 4 株式会社サカモト

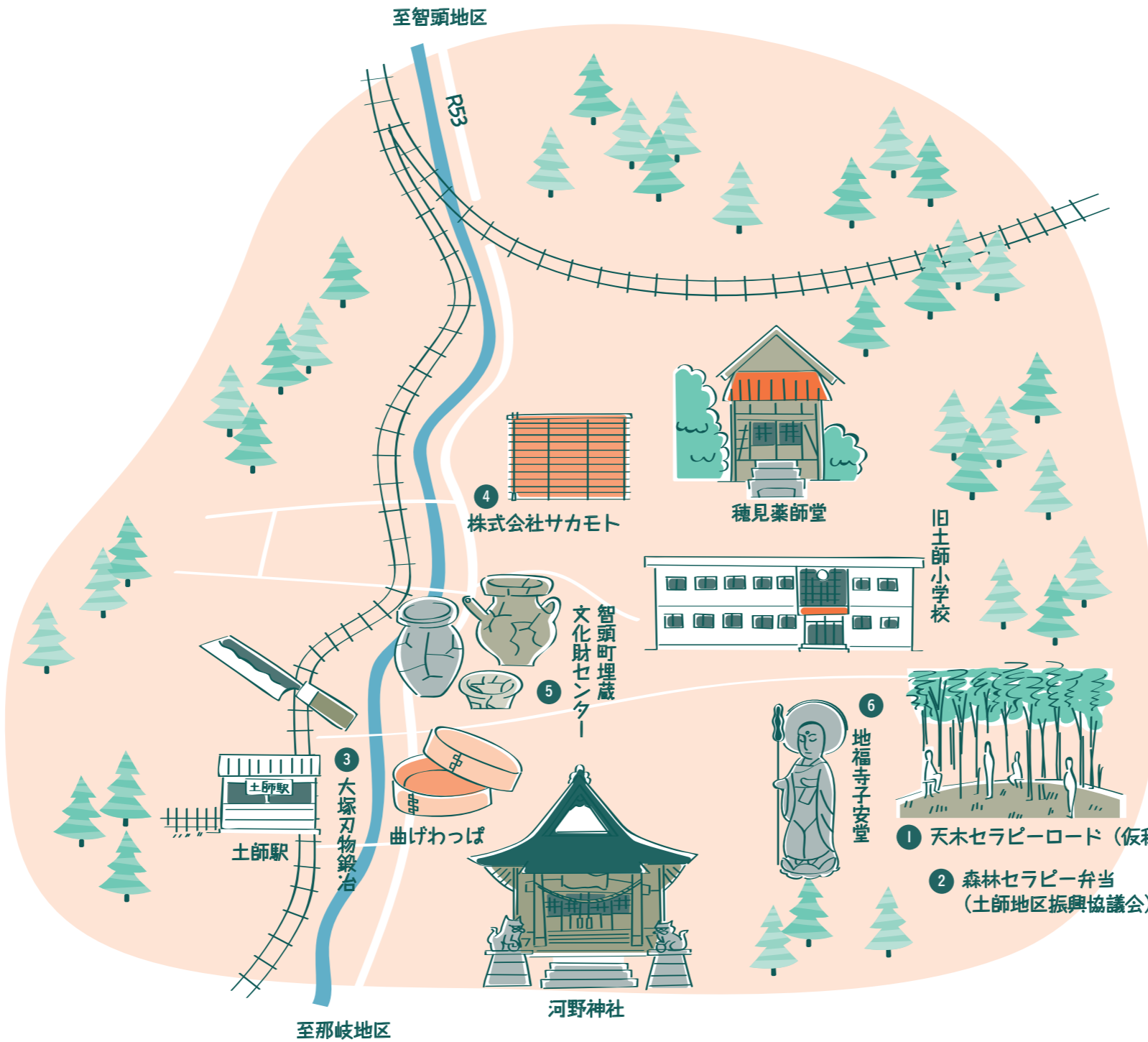
智頭杉、智頭檜にこだわった製品の開発と販売を行う地元企業。樹齢80年以上で柾目の整った杉だけを使った智頭杉ブラインドが好評です。

## 5 智頭町埋蔵文化財センター (旧土師小学校内)

町内で出土した土器が展示されていて、智頭町の歴史に触れることができます。土師地区振興協会による陶芸教室も行われています。

## 6 地福寺子安堂

妊娠や安産、健やかな子どもの成長を願う人の守護仏胎内仏を抱える木像地蔵(じぞう)菩薩(ぼさつ)がまつられています。



## 地区の歴史と特徴

土師川中流域にある土師地区は、鎌倉時代末期には智土師郷の名で史料に登場しています。吉備と因幡の交通の要衝に当たることから、南北朝時代から戦国時代にかけて多くの山城が築かれた土地柄です。中でも木原集落と横田集落の境にある唐櫃城は、石垣を有する山城でした。その石垣は現在、智頭町指定文化財になっています。

土師地区の町並みは、近世に入った頃に備前街道が整備されたとともにほぼ現在の姿となり、歴史の語り部の役割を果たしています。また、刃物や木材加工品の職人、農業では智頭の旨い米No.1となった穂見農業組合など、それぞれの技が光る地区です。

## 地区の取り組み

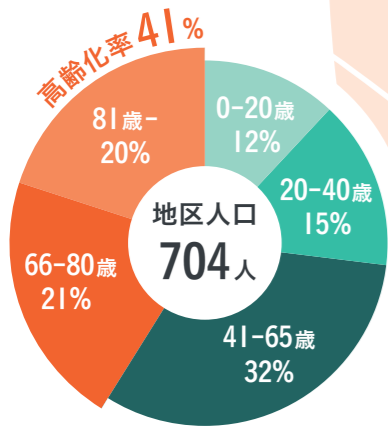
土師地区では、平成24年に土師地区振興協会が設立され、地元でとれた梅、筍や桜の花など山の恵みの加工や販売、土師の地名にちなんで陶芸による活性化にも取り組んでいます。また、天木セラピーロードの整備・運営と、森林セラピー弁当の製造に取り組んでいます。旧土師小学校内には、埋蔵文化財センターが設置され、町内から発掘された土器等の展示を行っており、本町の歴史を学ぶことができます。



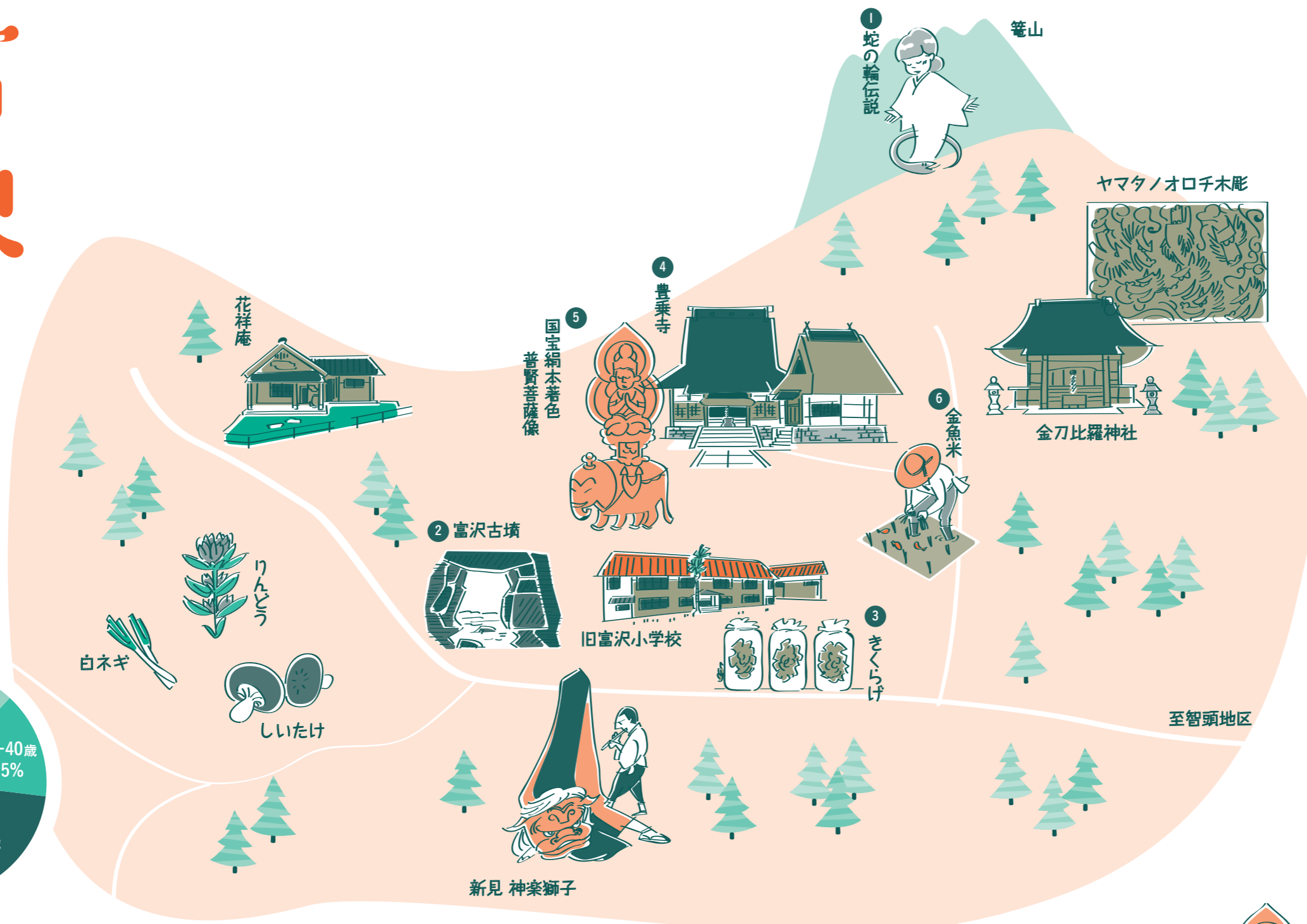
まじめで、和を大事にする。

# 富沢

地区



平成29年8月31日現在



## 地区の歴史と特徴

籠山のふもとにある富沢地区は、<sup>やまたの</sup>史跡と歴史の豊かな地区です。<sup>おろち</sup>八岐大蛇退治の彫刻が見ものの金刀比羅神社、中世の山城富貴谷城とこの城を拠点に勢力を広げていったといわれる草刈貞継と重継兄弟の物語など、この地域に根付く歴史的資源は枚挙にいとまがありません。豊乗寺は、国宝や重要文化財を数多く所有し、最盛期には僧坊12を数え、修行僧の行場として多くの学僧が集まった信仰と学問の拠点であり、そのことは今もこの地区の住民性に大きく影響しています。現在は、健全かつ持続可能な地区運営をめざし、一丸となって活動をしています。

歴史豊かな土地の上で静かに人々の暮らしが息づいている地区、それが富沢だといえるでしょう。

## 地区の取り組み

富沢地区では、平成9年に中田集落、波多集落で、平成12年に岩神集落で智頭町「日本1/0村おこし運動」の取り組みが始められました。中田集落では夏祭り、蕎麦づくりや蛇の輪の復元等、波多集落では集落だけの大運動会や集落内道路のあじさい植樹、ギボウシの栽培・加工等、岩神集落では河川、道路沿いの花づくり、岩神城跡整備などが実施されてきました。そして、平成24年には、富沢地区振興協議会が設立され、交流サロン「ひなたぼっこ」や「とみぞ輪夏祭り」、籠山トレッキング、キクラゲの栽培と販路開拓などの取り組みが行われています。

**1 蛇の輪伝説**  
恋に破れた女性が怒り狂って豊乗寺の池に入り、蛇となって籠山へ登ったという伝説による。蛇の輪の跡が籠山にあります。

**2 富沢古墳**  
町指定文化財で7世紀前半と推定されるこの古墳は、横穴式石室で、人が容易に入ることができます。

**3 キクラゲ**  
旧富沢小学校跡地を活用して、自立経営をめざして、キクラゲ栽培、加工、販売を行っています。

**4 豊乗寺**  
嘉祥年間(848-851年)に創建されるも戦国時代に焼失し、現在の建物は江戸中期と伝わります。境内には本堂と茅葺き大師堂が、山頂には奥の院があります。

**5 国宝絹本着色普賢菩薩像(東京国立博物館寄託)**  
けんぼんちゃくしよくふげんぼさつぞう  
国を代表する平安時代後期作の仏画であり、象の背に置かれた五重蓮華座に座禅し、合掌しながら行者の前に近づく普賢菩薩の姿が、優美な技法で描かれている。

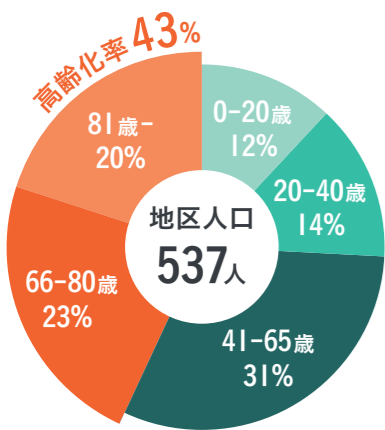
**6 金魚米**  
富沢地区の若者集団が、子どもたちと一緒に金魚を水田に入れ、化学肥料や農薬を使わないで、田植えから稲刈りまでを地域の人とともにしています。



地元愛と底力がある。

# 山郷

地区



平成29年8月31日現在



## 1 おむすびころりん

その朝穫れた野菜や地元の米で、地元のお母さんたちがつくった定食を提供する農家レストラン。いつも元気で賑やかな雰囲気です。

## 2 あけびの家(夢来キャンプ場)

中原集落が運営する夢来キャンプ場に建設してある宿泊可能なログハウス。薪風呂や炊事できる場所もあります。



## 3 新田人形浄瑠璃芝居相生文楽

幕末から明治時代初期に新田集落で始まり、と伝わる人形浄瑠璃芝居。芝居小屋があり、人形芝居鑑賞や体験もできます。



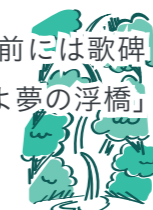
## 4 横瀬谷セラピーロード(仮称)

横瀬川沿いに木々が立ち並び、川のせせらぎを聞きながら、マイナスイオンたっぷりの森の中で森林セラピーができます。



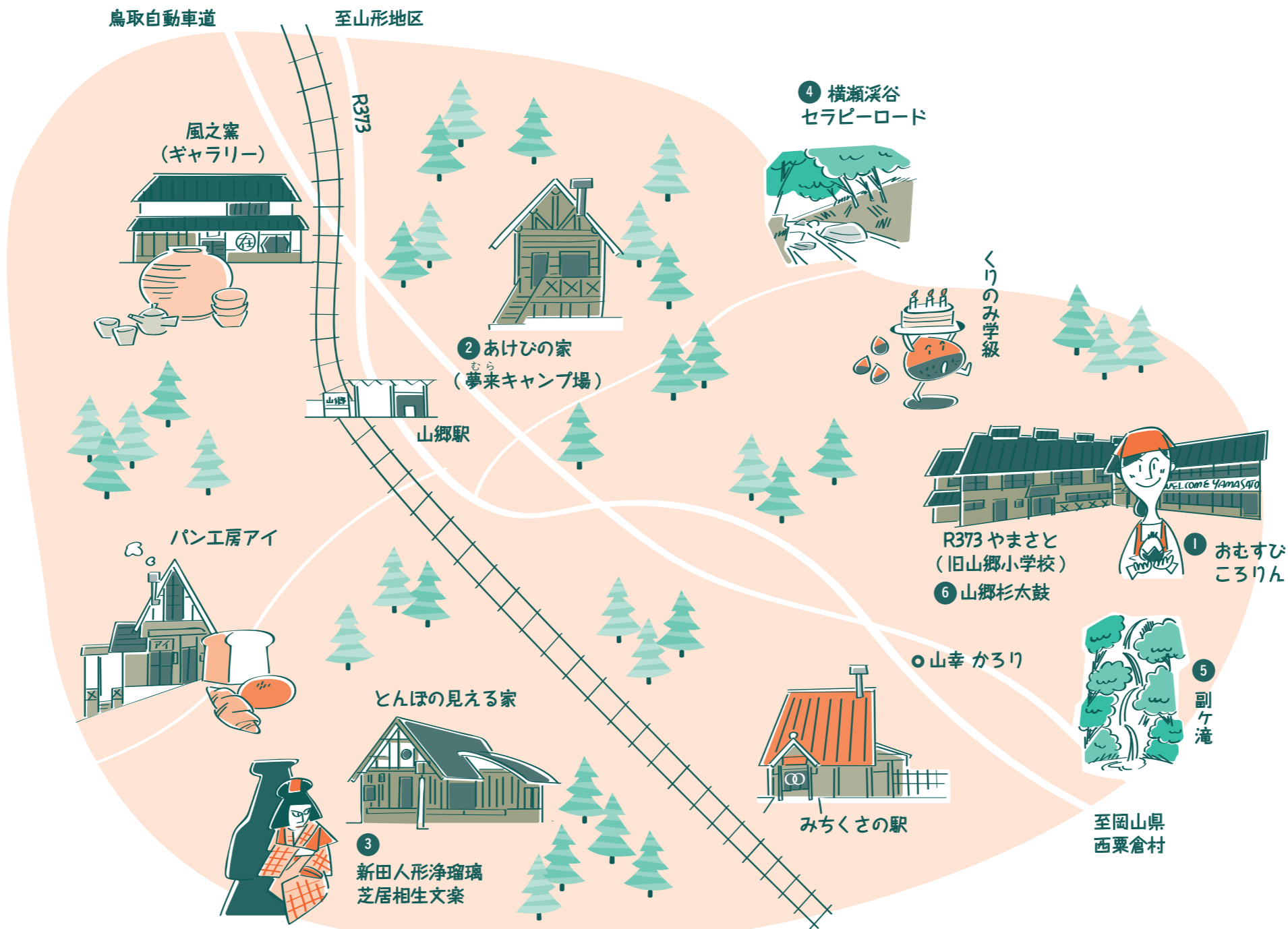
## 5 副ヶ滝

国道373道路脇に流れ落ちている滝です。滝の前には歌碑があり「今日因幡副の滝山越えるなり都に架けよ夢の浮橋」という美しい歌が残されています。



## 6 山郷杉太鼓

昭和58年2月に林業従事者が山郷小学校児童に寄付をして生まれた活動で、大勢の人の前で堂々と表現できる力や、集中力の育成をめざしています。



## 地区の歴史と特徴

岡山(西粟倉)へと向かう志戸峠は、古くは「鹿跡御坂」、江戸時代には「人見坂」と呼ばれ、現存する約21kmの内、山郷地区に残る2.5kmは国の史跡に指定されています。さらに、この古道は上方への主要道として重要な役割を担い、現在も景勝地として「魚の棚」や「副ヶ瀧」が残されています。

山間のこの地域では、生業として山仕事を副業としながら、焼き畑農業で生計を支えたという記録もあり、決して裕福ではなかった歴史を経て、現在の山郷地区は、地元愛の強い人々が杉太鼓や人形浄瑠璃の文化を保存・継承しつつ、地域の歴史を支えています。

## 地区の取り組み

山郷地区では、平成9年に新田集落と、白坪集落、平成10年に中原集落で智頭町「日本1/0村おこし運動」の取り組みが始められました。新田集落では大阪いずみ市民生協との交流、共有林の管理、喫茶・ロッジの運営、白坪集落では、耕作放棄地でのオミナエシや大豆の栽培、味噌・キュウリの酒粕漬、中原集落ではかずら細工、蕎麦づくり、夢来キャンプ場整備などが行われてきました。平成20年には、山郷地区振興協議会が設立され、交流施設として旧山郷小学校「R373やまさと」を活用し、企業研修の活用、テナント受け入れなどの取り組みが実施されています。